

救急医療のかかり方

救急医療の仕組み

●救急医療とは・・・ 英語: emergency medical services(EMS)

突然に発生する病気、けが、中毒などの患者を適切に救助し、病院へ搬送し治療を行い、社会復帰させることを目的とした医療体系です。

●医療機関の役割分担

診療所・クリニック(19床以下の医療機関)

「かかりつけ医」として、主に通院治療などを行い、日常生活に密着した保健医療サービスを提供する。

二次医療機関(20床以上の医療機関)

一般的な入院治療、リハビリ及び比較的専門性の高い、保健医療サービスを提供する。

三次医療機関(救命救急センターをもつ医療機関)

専門性の高い治療や、重篤な患者に対する救命救急医療などの保健医療サービスを提供する。

救急医療を受診する前に

- 出来るだけ医療機関の通常診療時間内に受診しましょう。

通常の診療時間の方が検査などを含めた診療体制が整っています。

- かかりつけ医を持ちましょう。

健康に不安を感じたときに相談できる、身近な医師を探しておきましょう。

- 救急車の適正利用を心掛けましょう。

緊急性がない救急車の利用が多くなると、緊急時に利用できなくなります。
大切な命を救うため、本当に必要なときに救急車を利用しましょう。

- 休日・夜間急患センターや休日当番医を活用しましょう。

急患センターは休日や夜間に急に具合が悪くなった人の診療を行います。
主に急な発熱、感冒症状、軽度の腹痛、嘔吐、下痢、めまいなどを診療します。



近年、「平日・昼間は仕事がある」「昼間は混んでいる」などの理由で、軽い症状でも休日や夜間に救急病院を受診する方が増えています。このため、重症患者の治療に支障をきたしてしまうことが心配されています。必要な人が安心して救急医療を受けられるよう、適正な医療機関の受診や救急医療の利用に、ご協力をお願いします。

救急診療フローチャート



<三次救急>

救急車を呼ぶ

119



緊急を要する？
意識がない・呼吸困難・激痛
出血が止まらない など

はい

いいえ

かかりつけ医がある？

救急医療情報サービス

で病院を紹介してもらう。

平日の診療時間帯？

かかりつけ医で対応可能？

紹介された病院に問い
合わせて、対応可能？

夜間・休日当番医
を受診

近隣の医療機関を受診

かかりつけ医を受診

夜間・休日急病診療所
を受診

病院を受診

<二次救急>

<一次救急>



救急車の呼びかた

救急車を呼ぶ時には、患者の情報を伝える必要があります。
しかし、多くの方は救急車を呼んだことが無いため、あせってしまいます。
落ち着いて、以下のことを伝えましょう。

- 救急であることを伝える。
- 所在地を伝える。(例:場所は〇〇町〇丁目〇番〇号です)
目標となるものを伝える。(例:建物、電柱・自動販売機の記号)
- 今、どんな状態か。(交通事故、ケガまたは発病の状態)
- ケガ人などが複数いる場合は、その人数を伝える。
- 通報した人の名前と連絡の取れる電話番号を伝える。
- 救急車のサイレンが聞こえたら、できるだけ案内人を出して誘導。
また、到着した救急隊員につぎのことを伝えましょう。
- 救急車が到着するまでの容体の変化
- 傷病者のために行った応急手当の内容
- 持病があればその病名、かかりつけの病院と主治医名、薬の名前
(これらの情報はメモにして、日頃から持ち歩き、周囲の人にも持っていることを伝えておきましょう。)



社内で急病人が出たら

職場内で急病人が出ることも考えられます。
普段から、緊急事態を想定した準備をしておきましょう。



- ①傷病者を**安全な場所**で、横に寝かせる。
- ②**意識の有無**、可能であれば症状を確認する。
- ③社内に医師や看護職がいる場合は、連絡する。
- ④**救急車を要請**する。
- ⑤救急車到着まで、必要に応じて**AEDの手配**や、**救護措置を行う**。
- ⑥警備担当部署や建物管理部署に、救急車を要請したことを伝え、**救急車到着時の誘導を依頼**する。
- ⑦傷病者の住所や生年月日、家族の連絡先など、救急隊に伝える**情報をメモし、準備**しておく。
- ⑧救急隊に、傷病者の状態を分かる範囲で伝える。
- ⑨社員の管理担当部署に、報告する。

特に⑤～⑦は、救急隊が到着するまでの短時間の間に、行う必要があります。周囲の人に指示を出しながら、対応しましょう。